

令和元年度の教育活動に対する学校評価表

学校番号	44	キラリ高等学校	課程	通信制	記載者	総合	A：よくできた C：不十分だった	B：だいたいできた D：ほとんどできなかった
------	----	---------	----	-----	-----	----	---------------------	---------------------------

今年度の重点目標（学校経営目標）		具体的取り組み計画	評価	成果と課題 自己評価
1	通信制高校に要求される総合的な教育力を拡充し、一層の向上を図る。	①基礎学力の確実な定着と授業への参加意欲喚起や主体的な学習態度を身につけさせる。 ②学校内外での生活指導を強化し、モラル・規範意識・社会常識を認識させることによって、自らを律することができるように指導する。 ③特別活動や校外スクーリングの質的向上を図り、魅力ある内容を提供して生徒自ら積極的関わりを持てるような取り組みをおこなう。 ④進路選択に際し、自ら決定できるための社会的・職業的自立に必要な基本的な知識・技能を育成する。	B	①通常授業でレポート指導を行うことにより、主体的に学習に取り組む姿勢が多くの子に見られるようになったが、確実な基礎学力の定着は実現出来ていない。 ②年々校内での生活指導が効果を発揮しており校則遵守の傾向が表れているが、問題行動の大部分が校外で起きている実態から、さらに規範意識の徹底を進める必要がある。 ③内容の吟味がなされ、生徒にとって魅力のあるものが提供できたが、一方で、興味を示さない生徒へのアプローチが必要。 ④総合の時間やガイダンスを通じて意識付けをおこなってきたが、全体的に動き出しが遅い生徒が多く、ミスマッチで入社すぐに辞退とならないようにしなければならない。
2	生徒一人ひとりの個性を伸ばすための、きめ細やかな対応を実践する。	①不登校傾向・発達障害・問題行動など困難を有する生徒に、学習の動機付けや、学びへの意欲を喚起できる教職員の養成を充実させる。 ②吉田本校並びに各スクーリング会場の生徒教、困難を有する生徒数に応じた適切な教職員の増加と配置を行う。 ③教職員体制の組織化を推進し、より機能的集団となるための研修を行う。 ④未履修・休学中の生徒・保護者へのアプローチを継続して行い、履修・復学を促す活動を活発化させる。併せて学費の未収金通知や入金交渉を進めるとともに未収金を増やさない取り組みを行う。	C	①外部研修により、困難を有する生徒への支援をより具体化させる方策を学ぶことができ今後もさらに継続していく必要がある。 ②期中を通じて教員数の増加を進めてきたが、困難を有する生徒に対応できる教職員数という観点では、まだ推進が必要。 ③毎月の全体職員会議で教職員の組織化を推進することができたが、各校舎における教職員個々の技能・技量が異なり、目標とする機能的集団には至っていない。 ④未履修・休学状況を全体で可視化することで、復学への具体的な取り組みを図ったが、精神的・経済的問題から大幅な解消にはつながっていない。また、就学支援金の判定方法が変更となり、保護者の負担が一時的に増加したことで混乱があった。
3	技能連携教育施設（各スクーリング会場）との連携強化と内容の充実	①多くの生徒が通学スタイルを選択しやすいうように、学習意欲を喚起させる取り組みを行う。 ②全日スタイルのコース授業をより魅力のある内容への転換を図る。 ③特別支援学校・学級や放課後デイサービスの専門機関との交流・連携を強化し発達支援モデルの構築をさらに継続していく。	C	①授業内でのレポート解説の実施により通学スタイルへの参加が増加したが、きめ細やかな指導は教職員の増加・配置によるところが大きいので、校舎により差異が生じた。 ②学力差が明確に出る進学準備・基礎学力コースはクラス分けが必要。なお、不登校傾向の生徒たちが全日スタイルを選択するには、さらなる授業内容の精査と生徒のニーズに合ったコース再編が望まれる。 ③特別支援を要する生徒対象の学校説明は年々増加しており、本校の重要性が評価されているといえるが、専門機関との交流・連携は図れていない。特に今後キャリアアシストコースへの積極的な推進が必要である。
4	吉田本校の整備・充実	①定着した週三日のウィークリースタイルを継続し、部活動・キャリア学習・インターシップ・ボランティア等の様々な活動を通して、高校生活の充実を図る。 ②授業実施日以外の二日間で進学指導、就職支援のための取り組みを行う。	B	①週3日のウィークリースタイルの生徒の割合が年々増加しており、部活動も新たに立ち上げたバドミントン部・美術部など部員の増加も見られた。吉田特別支援学校で実施されるイベントへのボランティア参加も常連となっており、今後も継続していく。 ②進学指導としての英語講座やレポート指導を受ける生徒が若干名参加したが、他校舎での授業のため移動する教員が多く、年間を通じての積極的な取り組みが難しかった。教員配置に改善が必要。
5	I C T教育及び、校務システムの整備事業	①インターネット授業配信を円滑に進め、教育サービスの拡充をはかる。 ②静岡県立高校仕様へ変更した校務支援システムに関して、さらに業務効率化を図るための、システムの整備・拡充をはかる。	B	①全体的に大きな問題が生じることなく生徒が視聴できたが、教員側の視聴確認時に正確な視聴記録（ログ）がPC上に反映されないケースがあったため、ハード面の改善が必要である。また、今後は動画の配信スケジュールを公表できるように、教員の録画日程を明確化する必要がある。 ②今年度は大きな変更は行っていないが、年々業務が効率化されてきた。但し、通信制に適応するためのさらなる整備・拡充には費用が高額なため、熟考を要する。